

ハーモニ

(第25号)

発行：下田市役所企画財政課 編集協力：男女共同参画社会の実現を目指す市民懇話会
電話：22-2212 FAX：22-3910 メール：kikaku@city.shimoda.shizuoka.jp

「女性の視点を取り入れたまちづくり」セミナー開催！その内容を紹介します。



写真中央：基調講演 講師 ^{ひづめ かずゆき} 日詰 一幸 静岡大学人文学部法学科教授

【講師略歴】1955年(昭和30年)生まれ 名古屋大学卒業 専門分野は「行政学」
静岡市市民活動協議会委員、静岡県男女共同参画会議委員を歴任。
都市の政治・行政、NPOの役割や機能、地域福祉政策などを研究。

平成23年11月26日(土)に「道の駅開国下田みなと」を会場として、下田市と
静岡県共催による男女共同参画市町連携地域実践活動セミナー「女性の視点
を取り入れたまちづくりセミナー」が開催され、下田市民31名が参加しました。

◎セミナースケジュール

◇第1部：基調講演（午前10時20分～午前11時45分）

◇第2部：分科会（午後12時15分～午後2時15分）

○第1分科会 テーマ「子育てしやすいまちづくり」【助言者（榑ふじやまママ代表取締役 ^{こばやし けいこ} 小林 恵子さん）

○第2分科会 テーマ「子育て世代と高齢者のふれあいができるまちづくり」

【助言者 ^{とこう とよこ} いたう市民活動支援センターPal 事務局長 都甲 豊子さん】

○第3分科会 テーマ「女性の政治・社会参加ができるまちづくり」【助言者 ^{のむら りょうこ} 三島市議 野村 諒子さん】

◇分科会報告・総括・講評（午後2時25分～午後3時30分）



第1部では、次のような基調講演をしていただきました。

○女性は労働力の担い手であり消費者でもある。今後の日本経済を変える原動力。

○地域の社会的課題を解決するため、男性と女性の英知を結集することが大切であり、女性がスムーズに社会参加ができるような環境の創出が求められる。

○男性と女性が、相互に協力し合えるような心地よい関係を築くことが大切。

○女性をいかに活かすか、それがこれからの経済の行方、企業の行方、地域の行方を左右する。
例えば、浜松市天竜区の女性グループ「夢未来くんま」の地域振興事業、東京都の女性左官職人チーム「ハラダサカンレディース」の取組みなど。

◇基調講演について、参加者から感想を伺いました。

「具体的な例をあげられてわかりやすく、聞きやすかったです。」
「男女共同参画の基本的な考え方を改めて勉強できました。」
「男女共同参画基本法からはなしていただき、これからの私達のしなければならぬ活動への足がかりが見えてきました。」
「意識改革の必要性は、主に男性の方にあるように思われますので、男性が多く参加できるセミナーを開くことも大切ではないでしょうか。」
「閉塞感のただよう下田。先生のお話を聞きながら、女性の力が発揮でき、にぎやかな下田をとりもどせたらいいかなと思います。」

◇第2部(各分科会)の様子を紹介します。

○第1分科会(参加者7名)【テーマ：子育てしやすいまちづくり】



助言者として、三島市の「**株**ふじやまママ」代表取締役 こばやしけいこ 小林恵子さんをお招きし、小林さんから、子育て情報誌の企画、発行に長年携わった経験に基づいた貴重な意見を述べていただきました。

参加者から子ども時代に体験した遊びや楽しい思い出、子育てについて困ったことを語ってもらいました。男の子を預かった女性が女子トイレを使わせようとしたら、「ぼくは男だから男子トイレに入る」と駄々をこねられ困ったというエピソードが紹介され印象に残りました。

そうした事例を通して、下田市の子育て支援全般について討論しました。

＜第1分科会のまとめ＞下田では、子育て支援センターなどハード面での整備は進んでいる印象がある。その一方で未就学、未就園の子どもを持つ母親が孤立感を強く感じているというデータがあり、ソフト面で母親の孤立感を和らげる工夫が求められている。

＜参加者の感想＞

「あっという間に時間が過ぎ、活発な意見が出てよかったです。」
「子育てしやすいまちづくりのためには、様々な関係者が意見を出し合い、相互に連携を深めていくネットワークづくりが必要と感じました。」

○第2分科会(参加者13名)【テーマ：子育て世代と高齢者のふれあいができるまちづくり】



第2分科会の助言者には、伊東市から「**い**とう市民活動支援センターPal」パル 事務局長 とこうとよこ 都甲豊子さんにお越しいただきました。都甲さんから、様々な市民活動やボランティア団体支援についてお話いただきました。

参加者全員がテーマに沿ってそれぞれの「やってみたくこと」、「それが実現するとどうなるか」、「実現に必要なもの」、「実現を妨げるもの」を語り合いました。

＜第2分科会のまとめ＞「今日ここに世代のちがう人達が参加して、互いに子育て世代について話し合える場を持てたことがスタートとなる」。「男性(パートナーや近所の人)を誘って、交流の場を作り広げていくことが大切」。「高齢者世代は子育ての現役世代に楽をさせるのではなく、一緒に子育てをし、知恵を分けてあげることが必要」。

＜参加者の感想＞

「子育て支援についての話し合いが主になりました。ファミリーサポートセンター(※)についての問題点はあるが、まずスタートすることが大切と思う。子育ての世代に、いろいろな支援があることを教えてあげることも大切。」

「活発な意見交換を通して、『人の役に立ちたい』と思っている、意欲的な方々の多さに感動しました。」

「都甲先生が方向を適切に示していただき、考える視点がぶれなくてよかったです。子育て中の親とのふれあいの難しさが感じられました。」

※ファミリーサポートセンターとは

子育て中の方が安心して働き、安心して育児ができるようにあらかじめ登録した市民同士が援助活動をするためのネットワークです。活動を希望する市民が、“おねがい会員”“まかせて会員”に登録をし、援助をお願いする人(おねがい会員)には、センターがコーディネートして、援助をする人(おまかせ会員)を派遣する仕組みです。センター事務所は下田市教育委員会学校教育課に設置され、平成24年4月1日から活動を開始出来るよう準備を進めています。

○第3分科会(参加者 11名)【**テーマ：女性の政治・社会参加ができるまちづくり**】



第3分科会では、現職の三島市議 のむらりょうこ 野村瞭子さんを助言者としてお迎えしました。

野村さんは、主婦として3人の子育てをし、子育てにひと区切りついでから様々な社会問題に関心を持たれ、市民活動・NPO 活動への参加を経て市議になられた方です。男性参加者3名も加わり、問題点や課題を出し合い意見交換を行いました。

＜第3分科会のまとめ＞「今日のセミナーを女性の政治、社会参画の第一歩としていこう。」「まちづくりへの希望などを積極的に発言していきたい。」「政治を身近なものにしていくため、情報を受信する能力を育てる必要がある。」「様々な分野で女性リーダーの養成を目指すことが重要である。」

＜参加者の感想＞

「女性が社会参加することは、現社会ではとてもむずかしい現状と改めて感じました。女性と男性の協力のもと、それぞれの特性が活かされた社会・地域づくりができればと思います。」

「一人ひとりの経験の中から、『声を出す』こと、『女性が政治的情報の受信能力を高める』ことの大切さを学ぶことができてよかったです。」

「野村さんの活動や、男女共同参画の課題についての認識の深さは参考になりました。このような意識を持つことは大切です。女性の立場から声を上げていくという自発性が、男女共同参画社会を造り上げていくことにつながると思いました。」

特集「私の子育て体験から思うもの」その2

男女懇話会会員の岩本ゆかりさんは、現在下田小学校 PTA 会長を務めています。以前に生活していた神奈川県相模原市の子育て環境について、お話を伺いました。前号(第24号)に引き続き、特集「私の子育て体験から思うもの」その2として取り上げることとしました。



Q1: 下田に転居される前の子育て環境について、お話を聞かせてください。

A1: 長男を神奈川県相模原市で出産し、そこで初めての子育てをしました。相模原市では、すぐ隣の東京都にある子育てサークルと交流が盛んで、様々なサークル活動から知識や情報を得て、自分の子育てに役立てることができました。

Q2: 子育てサークルでは、どのような活動が行われていましたか。

A2: 印象に残っているのは、ある助産院の子育てサークルの取り組みです。乳児の食事や育児方法などをサークルの皆さんと一緒に勉強することができて、とても助かったと思っています。



Q3: 相模原市の子育て施設について、感想をお聞かせください。

A3: 施設が整っていたという実感があります。児童館が5~6箇所ありました。おもちゃの貸し出しサービスがあり、施設内の大きなホールでは、中学生が卓球やトランポリンをして遊んでいました。そこには、ミニカーや自転車も備えられて、子ども達が自由に利用できました。子ども達と一緒に、児童館で楽しいひとときを過ごすことができました。

【編集後記】

相模原市は人口70万人以上の政令指定都市(平成22年4月1日移行)であり、平成23年度の同市の予算規模は、2,338億円(一般会計分)に達する大きな自治体です。児童館の設置など、子育て支援のハード面で下田市と単純な比較をすることは困難です。当市においては、子育て支援センターの設置(平成22年4月12日)など施設整備を進めるとともに、ソフト面では社会福祉協議会主催の「ひよこサロン」や市民ボランティア活動「遊・VIVA ネットワーク」、「子育て応援隊ぽっぽ」などの取り組みが、活発に行われています。

岩本さんは環境の変化に戸惑いを感じながら、今は次男の子育てに全力投球されています。小学生の長男は、弟の面倒を良く見てくれているそうです。仲よし兄弟に育ってほしいですね。

※男女共同参画情報紙「ハーモニー」への御意見、御感想を募集しております。

下田市役所企画財政課企画調整業務担当まで御連絡ください。

電話:0558-22-2212 FAX:0558-22-3910 E-mail:kikaku@city.shimoda.shizuoka.jp